

『社会系教科教育学研究』第30号の発行にあたって

第5代会長 米田 豊

社会系教科教育学会は、「学校教育における児童・生徒の社会的資質形成に関する教育実践の科学的研究を行い、その普及と発展に寄与すること」を目的として、平成元（1989）年の11月26日に設立された。設立の中核的なメンバーは、兵庫教育大学大学院の社会系教育講座の教員と修了生である。

平成元（1989）年版学習指導要領では、社会科の教科編成が大きく変わった。このことから、生活科や地歴科、公民科、総合的な学習の時間も視野に入れ、初代会長星村平和先生によって「社会系教科教育学会」と命名された。当時の状況を、学会設立の呼びかけ文の中の、「戦後わが国における民主主義社会の建設と発展に寄与する児童・生徒の育成に、重要な役割を果たしてきた社会科教育の理論と実践が改めて問われている状況であります。」に読み取ることができる。また、「社会科の教育実践に関連する情報の発信基地としての学会」という言葉に、社会系教科を極めることへの気概が感じられる。学会誌第30号の発行にあたり、このことをしっかりとかみしめたい。

第1回の研究大会は、平成元（1989）年11月26日（日）に兵庫教育大学にて83名の参加者を得て開催された。ワープロが普及し始めた時期で、星村平和会長と岩田一彦代表理事の講演演題を筆で書くという手作りの学会であった。

『社会系教科教育学研究』は、平成2（1990）年10月には、平成元（1989）年3月に兵庫教育大学大学院社会系教科教育修了生の論文掲載誌として刊行された『社会系教科教育学研究』第2号を学会発足記念号として学会誌に衣替えを図り、本会の機関誌を発行した。

現在では、『社会系教科教育学研究』は、全国社会科教育学会の『社会科研究』、日本社会科教育学会『社会科教育研究』と肩を並べる学会誌として成長を続けている。その特徴は、冒頭に示した学会設立の目的にあるように、「教育実践の科学的研究」にある。社会系教科の大学院は、修士課程から専門職学位課程（教職大学院）に移行している。その趣旨は、「理論と実践の融合、往還」である。

今後も子どもを中核にして、学校教育現場とのつながりを大切にしたいと願っている。